事務局 9 年余の思い出

One Decade in ISHM JAPAN
and SHM Office

平林 久雄*

昨年11月10日の第1回 SHM 通常総会を機に、SHM の専務理事を退任いたしました。ISHM JAPAN 事務局局長時代を通じて、9 年 4 カ月の長期間勤めたことを考えると大変感慨深いものがあります。

この機会に一筆書けとの中村編集委員長のお勧めがありましたので、誌面をお借りしていささか思い出話を綴らせていただきます。

● SHM 事務局長を引き受ける

「HYBRIDS」の Vol.1 に、窪田副会長が「ISHM JAPAN 今昔物語」と題して、協会の創立と初期のご苦労を貴重なエピソードを交えて書いておられます。そのご苦労が実って第1回国際会議 IMC1980が見事な成功を収めましたが、その成果をもとに会の発展を図るため、それまで外部に委託していた事務局を協会自体で持とうという議が起こったと聞いております。

ちょうど沖セラミックの役員を退任していた私に、当時同社におられた和田氏（現 SHM 理事）よりお前やらぬかとお話があり、窪田（現 SHM 副会長）、伝田（現 SHM 常任理事）両氏に内容を伺って、事務局長をお引受けしたのが私と協会とのかかわりのそもその始めでした。

当時の ISHM JAPAN の正会員数は60名以下。これなら大したことはない、軽い気持ちでお引受けした訳ですが、その後の会員の急増にうれしい悲鳴をあげるようになりました。しかし、IMC1980が終ってこれから会が立ち上がるという時に事務局をお引受けし、その後の協会の発展とともに仕事ができたとすることは、まったくの幸運と感謝しております。

当初は事務局には拙宅の一室があてられ、時には家内に手伝わせるという始末、特に IMC1982、1984には登録

業務も協会自体でやりましたので、委員の方々にお願いをいただいて準備に当たっていただくなど大変な状態で、何とかボロを出さずに済んだのはまったく皆様のご尽力のお蔭でした。

この状態も1985年10月、現在の事務局が開設され、また IMC1980の時、中心になって事務処理に当たった平田さんにきていただき、ようやく協会事務局の態をなすようになりました。

● 会員のニーズに応じて充実・発展

協会発展の経緯については「HYBRIDS」などにより皆様ご承知ですので記しませんが、会員のニーズに応じて、技術講演会の開催、機関誌の発行、MES の開催、SHM 研究会の開催などの新事業が続々企画実施され、一方 IMC、ISHM 視察団、特別セミナーなどの継続事業は規模内容が一層充実されました。これら事業内容の拡大が会の飛躍的発展の原動力となった訳です。

これら事業の推進は、担当理事を中心に委員の方々のご多忙の身を顧みない献身のご尽力によってできたことで、これら事業の実施に事務局としておよばずながらお手伝いできたこと、また私個人として若い優秀な方々と一緒に仕事ができたくて大変ありがたく思っております。

“お蔭様で9年有余を大過なく勤めた”と申し上げたいところですが、私の健康上のことで、特に大事な時に大変ご迷惑をおかけしたことをお詫びしなければなりません。

第1回は IMC1982の開催直前、準備の一番肝心の時にダウン入院の始末。この時は組織委員長の窪田理事が、ご自身の会社をあげて IMC 開催事務のいっさいを引き受けていただき、そのご尽力により IMC1982を成功に導いていただきました。

第2回は IMC1988終了直後の長期入院。この時は社団法人設立許可に向けて、準備と対官庁折衝が最も大事な

*Hisao Hirabayashi
SHM 参与/Adviser

時期にきており何とも申し訳ない入院でした。お蔭様で二瓶理事（法人設立準備委員長）をはじめ委員の方々と平田さんの大変な努力により、みごとに難関を乗切り法人設立を実現していただきました。

●活動実績が評価され社団法人化が実現

このように関係者のご尽力と、協会活動実績が評価されたことにより、昔を考えれば夢といえる社団法人化が実現され、協会は文字通り一人前と認知されました。大事な時に病気でほとんど何もできなかった私が、初代の

専務理事を拝命したのは光栄であるとともにおもはゆいことでした。

幸い2度あることは3度のご迷惑はかけず、健康で任期を完うすることができましたが、さらに協会の参与委嘱の栄を賜り、大変ありがたいことと思っております。

在任中、故菅田前会長をはじめ新旧の正副会長、役員、委員の方々、また会員の方々に公私にわたりお世話になり、ご協力いただいたことは限りなく、無事任務を終ることができたのはそのお蔭と、この機会に御礼の言葉を記させていただきます。